

情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会  
CISPR B 作業班 (第 4 回) 議事要旨 (案)

- 1 開催日時：平成 25 年 2 月 6 日 (水) 14 時 00 分～16 時 10 分
- 2 開催場所：金融庁 14 階 1414 会議室
- 3 出席者 (順不同)

【構成員】井上主任 (KEC)、吉岡主任代理 (富士電機)、田辺主任代理 (電中研)、阿良田構成員 (電技協)、石田構成員 (ARIB)、金子構成員 (日本溶接協会)、川村構成員 (ノキアシムスネットワークス)、久保田構成員 (TELEC)、小玉構成員 (シャープ)、後藤構成員 (NICT)、篠塚構成員 (NICT)、田島構成員 (NTT)、野田構成員 (西山工業)、羽田構成員 (JQA)、林構成員 (三菱電機)、平野構成員 (JFMDA)、福島構成員 (超音波工業会)、三浦構成員 (電気興業)

【事務局】丸尾、臼井、黒田、下谷 (総務省)

#### 4 議事概要

(1) 資料 4-1 前回議事要旨 (案) について、修正意見等あれば 1 週間以内に事務局まで連絡することとなった。

(2) 資料 4-2-1 CISPR バンコク会議 SC/B 審議結果、資料 4-2-2 CISPR バンコク会議 SC/B/WG2 審議結果について、吉岡主任代理及び田辺主任代理から説明があり、以下の議論があった。

○野田構成員：韓国から電子レンジの測定においてピーク測定を省略し、平均値測定のみとするよう提案があり、その理由として日本の電波法でピーク測定を要求していないことを言われているようだが、日本からは何かコメントをしたのか。

吉岡主任代理：放送や通信に影響が無いことをしっかり評価した上で進めて欲しいというコメントをしている。

篠塚構成員：バンコク会議の B/WG の開始前に、Deter (ドイツ)、金 (韓国) 等のメンバーとピーク測定省略案に関する日本の考えについて議論を行った。電安法の測定法 (リニア weighting) に関する誤解を修正させた。B/WG では、後藤構成員が対数 weighting 許容値を満足していてもピーク許容値を満足していない実機の測定例もあることから、通信や放送に与える障害についての懸念を示した。

後藤構成員：NICT は衛星放送に与える影響評価を検討する予定である。審議表作成を担当する。

野田構成員：日本の電波法ではリニア平均で許容値を決めており、CISPR は対数平均で

許容値を決めていることから、電波法の許容値は対数平均による不安定さが無いというところで、CISPR の考え方と違いがある。

○久保田構成員：9kHz～150kHz の伝導妨害波について検討をしないことになったとのことだが、検討の必要が無いといったような議論がなされたのか。

井上 主任：150kHz 以下の周波数について、各製品群規格で許容値を設定すべきかどうかという点について CISPR 文書により各国からのコメントを求めたところ、は各国からの十分なサポートが得られなかったので、CISPR 総会で当面各 SC での審議の指示はしないこととなった。

- (3) 資料 4-3-1 CISPR/B/WG1 チェルトナム会議結果について、井上主任、吉岡主任代理から説明があった。
- (4) 資料 4-3-2 CISPR/B/MT-GCPC チェルトナム会議結果について、小玉構成員から説明があった。
- (5) 資料 4-4 CISPR/B/WG2 中間会議について、東京で開催される会議のスケジュール等、田辺主任代理から説明があった。
- (6) 資料 4-5 CISPR11 答申案作成アドホックグループの作業状況について、久保田構成員から説明があった。
- (7) 次回会合は未定。

以上